

項目	説明	
試料・情報の 利用目的 及び 利用方法	研究課題名	子宮頸部腺癌に対する画像誘導小線源治療併用重粒子線治療の遡及的解析
	研究対象者	子宮頸部腺癌と診断された患者さんのうち、2019年4月から2022年3月の間に神奈川県立がんセンターで画像誘導小線源治療併用重粒子線治療を受けられた方
	研究目的	子宮頸癌の根治的治療としては、手術、(化学)放射線治療がある。IIB期以上の局所進行子宮頸癌に対しては化学放射線の良好な成績が報告されており、世界的に第一選択の治療となっている。局所進行子宮頸部腺癌に対する化学放射線療法は全生存、局所制御ともに扁平上皮癌に劣る結果が示され、更なる治療強度の向上が期待される。重粒子線治療は、良好な線量中性と生物学的効果を有し、従来のX線による放射線治療抵抗性の腫瘍への効果が期待される。実際、種々の放射線治療抵抗性の腫瘍に対する良好な治療成績が示めされており、子宮頸部腺癌に対しては、NIRSでの重粒子線治療単独、シスプラチン併用重粒子線治療の前向き試験で有望な治療成績が報告されている。今までの報告で局所進行子宮頸癌に対し小線源治療を利用した重粒子線治療のまとまった治療成績や線量制約に関する報告は乏しい。今回、当院での3次元画像誘導小線源治療を利用した、シスプラチン併用重粒子線治療の初期治療成績および線量評価を目的に研究を行う。
	研究方法	当院データベースをレビューし、子宮頸部腺癌に対し、2019年4月～2022年3月に画像誘導小線源治療併用の重粒子線治療を開始された患者さんを対象に遡及的に解析する
	個人情報保護	提供される患者さんの診療情報は、容易に個人を特定できないように匿名化して使用させていただきます
研究期間	西暦 2023年3月6日～西暦 2025年12月31日	
利用する試料・情報の項目(チェック[X]が入った項目を利用します)	[]試料:	[]血漿、[]血清、[]全血、[]末梢血から抽出したDNA、 []病理検体(具体的に記載: _____)、 []尿、[]糞便、[]唾液、[]胸水、[]腹水、[]脳脊髄液、 []毛髪、[]その他(具体的に記載: _____)
	[✓]情報:	[✓]診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、[✓]年齢、[✓]性別、 [✓]既往歴、[✓]併存疾患、[]外来日・入院日・退院日、[]臨床検査値、[✓] 放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、 [✓]臨床所見・経過(予後追跡データを含む)、[]看護記録 []その他(具体的に記載: _____)
試料・情報 を利用する 者の範囲	当センター研究責任者	所属・氏名 放射線治療科 土田 圭祐
	共同研究機関および責任者	なし
	その他の機関	なし
試料・情報の利用停止および 情報公開に関する窓口	神奈川県立がんセンター 放射線治療科 土田 圭祐 TEL:045-520-2222	